



自分の性格を作る

免責事項

著者はこの E-BOOK を出来る限り完全、正確にするよう最善の努力をしていますが、急速に変化しているインターネット産業の性質のため、未来永劫、常にここに書かれている内容が正しいとの保証をすることはできません。

著者はこの E-BOOK に書かれている情報をもとに読者が直接、間接問わず何かしらの損害を受けたとしてもその責任は負いかねます。

この E-BOOK は法的、商的、会計的ならびに金融的助言の根拠に利用されるために書かれたものではありません。読者は、法的、商的、会計的ならびに金融的に十分な見識のある第三者の忠告を受けてください。

利益に関する保証は一切行いません。ここに書かれた情報をどのように利用するも読者の責任となります。著者は事前の通告なしにこの内容を変更する権利を有します。著者はいかなる場合も読者の利益に対する責任を負いません。

自分の性格を作る

わたしたちが意識するしないにかかわらず、人にはそれぞれの癖というものがあります。

望ましい、良い癖もあれば、悪い癖もあります。

悪い癖の中には、それ自体はそこまで悪くなくても、状況によっては最悪の結果につながってしまうようなものがあります。

一方で、良い癖のなかには、前向きな力がどんどんわいてきて、たくさんの平穏と喜びをもたらしてくれるようなものもあります。

こういった癖を、自分自身でコントロールできるようになれば、どんなに良いでしょう。

それは可能なのです。

「なりたい自分になる」、人の意思の力によれば、難しいことはありません。

思い切ってそうやってみたはいいものの、もしくは、確かにその通り、と実感してはみても、いったいどうすれば良いのでしょうか。

じつはそれには、ごくシンプルで自然な、そして理にかなったテクニックがあるので。

昔から根付いてしまったような悪い癖を無くし、望むべき良い癖を手にするテクニック。

そして人生の一部、さらにはすべてを変えてしまうような癖を手にするテクニック。

そういったものが存在するのです。

思考とは、すべてをそのコントロール下に置くことのできる力です。

つまり、あなたの行動、考え方、そういったものはすべて、思考により予定されたも

著者：K.Imahayashi

<http://keima-infobiz.com>

<http://blog.keima-infobiz.com>

のにすぎない、ということです。

いいかえれば、あなたの思考が、あなたの行動すべてを決定しているというわけです。

わたしたちの意識はわたしたち自身のものですから、わたしたちでコントロールできるものであるべきです。

もしそれができない、という方も、安心してください、解決策を伝授します。

思考が、わたしたちの行動、癖、性格、はては人生までもを決定する以上、思考をコントロールできるようになることはなによりも大切なのです。

ここでは、その意識のコントロール法について紹介します。

それは、肉体の反射神経のつながりの仕組みについて、つまりどのようにして意識が、同じ状況下で同じ行動を、次第になんの努力も伴わずに、起こしうるのか、または、その反対の行動では努力を伴うのか、そういった癖の仕組みについて、考えていきます。

体が反射神経を通して、特定の行動を習慣化できるのと同様に、意識も特定のタイプの思考を習慣化できる力をもっています。

ですから、最初は失敗したとしても、思考をコントロールする努力を続けていけば、時間が経てば簡単に、そしていずれは完全に、コントロールができるようになるのです。

そうして、どのタイプの思考を行い、どのタイプの思考は行わないか、それを判断しコントロールする力が養われます。

これは無意識のうちに養われるもので、先にも述べたように、最初の方の結果こそ納得のいくものでは無いかもしれませんが、試行を重ねていくことで目的の結果に近づけていくことができます。

失敗は成功を導くための努力の一部であり、そういった真剣な努力によって、最終的に納得のいく結果を達成できるというわけです。

こうして人は、状況に応じて完全に意識をコントロールし、どういった性格をもってどういった思考をするべきかを判断できるようになります。

いくつか具体例を挙げてみましょう。

著者：K.Imahayashi

<http://keima-infobiz.com>

<http://blog.keima-infobiz.com>

とある金融機関で会計係をしている男性が朝刊で、数時間のうちに株で大もうけをした人物についての記事を読みます。

彼は最近、顧客の中でも同様の大もうけをした別の人物のアカウントを扱ったことがありました。

その裏では、同じ方法で大損をした人が数百人というのにまでは考えが至りません。

きちんと富を築いていくことに近道はないとは気付かないのです。

彼は彼のアカウントの一部を使い、例に漏れず投資した分を失い、今度こそはコツが分かったものと思いながらさらに多くのお金をつぎ込みます。

おそらく計算して考えをめぐらすことを思いつき、効率的な投資の方法を考えます。

9回か10回目くらいになって彼は、これ以上続けても状況はよくなる、との判断を下せるようになるでしょう。

わたしたちはこの例をどう考えるべきなのでしょう。

もし彼がかしこい人物であったならば、他人のことだと考えて、自分自身が投資するなどという考えは実行しなかったでしょう。

彼がおろかならば、やってみるはずです。

まず、投資するという考え方が彼を支配して、彼の意識を浸食し、つぎつぎと、先へ先へと続いていき、不名誉、恥、退廃、後悔などが残るでしょう。

最初の段階では、止めることは容易でした。

しかし、一旦始めてしまうと、悪い方向に続いていき、途中で止めることができなくなり、現実問題として続けるのが無理という状況になって終わるのです。

つけ始めの時には簡単に消すことができたマッチの火も、いつのまにかビル全体を焼き尽くす大きな炎に変わってしまうのです。

もう1つ、具体例を見てみましょう。

ありふれた状況ではありますが、癖というものがどのように形成され、一方で同じよ

著者：K.Imahayashi

<http://keima-infobiz.com>

<http://blog.keima-infobiz.com>

うな癖が形成されないこともあるのか、ということがよくわかる例です。

ある若い男がいます。

出生や家柄はどうあれ、彼は一般的に言われる意味において好青年です。

そんな彼が、彼と同じような仲間たちと、楽しい夜を過ごしています。

たいがいそういう時は、人々はあまり深く考えずに、時には注意せずに、行動してしまうものです。

仲間の一人が、飲みにいこうと提案します。

さきほどの男性は、当たり前のように愛想良く、だからこそほとんど無意識に、そこにいた仲間の流れにつれられて飲みに行くことになります。

そんな具合で、いろいろな仲間たちと飲みに行くことを次第に繰り返すようになっていきます。

この段階になると、飲みに行くのを断る、という力が衰えているのです。

このようにして、知らないうちに飲みに行くことが習慣化され、彼は自ら仲間を誘うまでになります。

中毒にまでなった彼は、自分が中毒であることに気付くまで、この習慣から逃れることはできません。

こういった例は昔からいくつもあります。

やっとことの重大さに気付いた彼は、恥や怒りや後悔を感じながら、この悪い習慣が始まる前の、中毒とは縁の無かった自由な自分を取り戻したいと思うようになります。

しかし、希望はとうの昔にどこかへ行ってしまいました。

この習慣を始めさえしなければ。

今のような状況になる前に止めておけば。

ところが実は、最悪の、どうしようもないような状況になった今からでも、もう一度自由な自分を取り戻す力はあるのです。

著者：K.Imahayashi

<http://keima-infobiz.com>

<http://blog.keima-infobiz.com>

飲みたい、という衝動がまた襲ってきました。

そのまま行動すれば、彼はまた衝動に負けてしまいます。

ゆいいつの希望、逃れるチャンスは、飲みたい、と思ったその瞬間にあります。

思ったその瞬間なら、まだマッチの火を吹き消すほどに簡単です。

もしそのまま放っておけば、小さな火は大きな炎となり、そうになってしまうともうどんな努力も通用しません。

飲みたい、という意識は、思いついたその瞬間に消さなくてはなりません。

失敗や戦いは、無駄な時間の浪費だとしなくてはなりません。

それは、最初に簡単に消すことができたはずの衝動よりもはるかに恐ろしいものだからです。

ここで1つ、とても大切なテクニックをご紹介します。

それは、「直接的に向き合わない」というテクニックです。

思考は、それと向き合ったり、直接に対応したりしようとせず、何か他の対象に思考の目をそらしてやることで、簡単に意識の中から追い出すことが可能なのです。

他の対象とはたとえば、完全に理想的なコントロールができた状態や、あるいは今現在の思考とは全く違う何かを意識できている状態などのことです。

これを続けることにより、たとえば「飲みたい」という考えが次第に意識の外に追いやられ、それ以外の対象こそがもっとも意識の望むものである、という力が身に付いていく、というわけです。

結果として、「飲みたい」という考えはどんどん小さくなっていき、気付いた時には簡単に意識の中から消してしまうことができるようになります。

最後には「飲みたい」という考えすら思い浮かばなくなる、というわけです。

もう1つの例です。

あなたがもともといらだちやすい、時には簡単なことで怒ってしまうような、そんな

著者：K.Imahayashi

<http://keima-infobiz.com>

<http://blog.keima-infobiz.com>

人間だったとします。

あなたの嫌いなことを誰かがしたり言ったりすれば、まず嫌悪感をあらわにするか、時には怒りだしてしまうかもしれません。

嫌悪感をあらわにしたり、怒りだしたりすることが続けば、しだいに、ほんの些細なことにも同じ反応を示すようになってしまいます。

そして最終的には、それらがあなたの性格の良い部分さえも奪ってしまい、近づいた誰に対しても怒ったり嫌悪感をあらわにしたり、ひいては憎んだりするような、そんな性格の人間になってしまうでしょう。

しかし、もしもそういった嫌悪感や怒りを感じた瞬間に、それを自覚して、そこで他のもので気を紛らすことができればどうでしょう。

そのように意識を他に向けることを続けていければ、それは次第に当たり前のようになっていき、結果としてあなたはどんなことに対しても、嫌悪感や怒りを感じることがないという性格になることができます。

このようにして、ある状況には別の状況、ある性格には別の性格、ある癖に対しては別の習慣でもって、対処していくのです。

気にとめないようにする癖は、あら探しをするような癖と同じように、身に付いていきます。

他人をねたむ気持ちは、他人をたたえる気持ちを身につけることによって無くすことができます。

勇敢な性格も、恐がりな性格と同様の過程を経て育まれていくのです。

同じ労力ならば是非、世の中のあらゆる後ろ向きな感情や性格よりも、それ以上のたくさんの方の前向きな気持ちや習慣を育てて行きたいとは思いませんか。

人生の縁というものにおいて、わたしたちはみな同じようなことを考えるものだ、ということは変わらない事実なのです。

「自分が思っていることは、他人も思っている」というわけです。

ある人の性格というのは、その人の癖のあつまりでできているようなものです。

著者：K.Imahayashi

<http://keima-infobiz.com>

<http://blog.keima-infobiz.com>

そしてその癖というのは、考えがあろうがなかろうが、その人の意識的な行動によって成り立っているのです。

わたしたちはみな、一方で思考を、もう一方で性格、人生、そして運命といったものを持ち合わせています。

人が何かを感じる時、それは単にその瞬間の思考によるものであり、それが次の思考、またその次の思考、というようにつながって、時間は成り立っています。

理想の自分になるための2つのステップをご紹介します。

1つめは、まず理想の自分のイメージをつくること。

そして2つめに、何があろうと、持続的に、そのイメージ通りの自分を続けるのです。

偉大で強い性格というのは、将来の目的のためには目の前の楽しみを犠牲にする覚悟をもってこそ手に入る、ということをお忘れないようにしましょう。

日々、年々、高い理想の自分を続けていくことにより、最終的には目的の性格を手に入れることができるのです。

人生とは、目先の喜びのために生きるものではなく、すべての人に与えられた、高い理想を達成するためのチャンスなのです。

楽をしようとしたり、誘惑に負けたりすれば、その先には今までよりも悪い自分の姿しか待っていません。

その先には、長く続く真の喜びは待っていないのです。

「理想の人生とは何か」ということよりも、「理想の人生を送れるか」ということの方が重要なのです。

理想の人生自体を吟味することにはあまり時間を費やすべきではありません。

なぜなら、吟味の過程で起こりうる不満や落ち込みが、徐々にやる気を失わせ、せつかく送れるはずだった新しい人生を実現不可能なものにしてしまう危険があるからです。

もっと具体的に説明するためにあえてわたしの話を引き合いにしますが、わたしの

著者：K.Imahayashi

<http://keima-infobiz.com>

<http://blog.keima-infobiz.com>

人生においても、その時には逃げ出したくなるような状況が何度もありました。

恥をかくことも、深い悲しみをおぼえることもありました。

しかし例外無く、十分な時間が過ぎれば、冷静に振り返ることができ、そういった経験はそのあとの人生にとって大切な経験となるものです。

わたしの人生にとっては今や不可欠な経験となっているのです。

自分にとってのどんな恥も、どんな悲しい経験も、世の中にとってはとるにたらないことすしね。

そして、わたしがもう1つ学んだことがあります。

たとえ今の人生が、一般的にはそれほど魅力的なものでもなくとも、それを受け入れよう。

これからの人生が、どんな状況をもたらしても、不満を言わず、落ち込まず、いつもその時々でのベストな状況なんだ、と、前向きに生きていこう。

その時点では、なぜこんなことになっているのか分からない、自分の人生においてどういう意味があるのか分からない、という状況もあるかもしれません。

それでも前向きに対応していくことで、やがては、すべての経験に感謝できるような結果となるのです。

人はだれでも、自分の人生の苦しみや悲しみが、よもや世界でいちばん大きいのではないか、とまで考えてしまうものです。

そういった苦労は誰もが経験しているのだ、ということを考えられなくなってしまうのです。

他の人がどういった経験や気持ちを味わっているか、ということは確かには分かりませんから、自分に起っていることにあまりに一生懸命になりすぎてしまうのです。

人にはそれぞれ、乗り越えていかなければならない悩みがあります。

人はだれでも、自らの内面を鍛え、人生において望ましくない状況になっているのはなぜかを見極めていかなければなりません。

著者：K.Imahayashi

<http://keima-infobiz.com>

<http://blog.keima-infobiz.com>

人はだれでも、いろいろな悪い状況に向き合っていく強さを身につけ、良い状況に変えていくすべを養っていかねばなりません。

その過程においては、人はそういった経験を分かち合い、お互いに助け合い、またその先のあらゆる状況に向き合っていくコツを身につけることができるでしょう。

しかし、実際に生きていく、ということになると、自分自身でやるしかありません。

実際に、望もうが望むまいが、ある状況におかれている場合、そこから抜け出すには、冷静で客観的な判断によって、その状況にどう対応するかをみつけることが必要になってきます。

対応の仕方が決まればあとは、それを無理すること無く、自然に、柔軟に、実行して乗り越えていくのみです。

自然で柔軟な対応をすることによって、状況は最良のものとなり、望むべき結果が得られることでしょう。

逆に、無理をして、自然な対応ができなければ、状況はばらばらになってしまい、より悪い状況になってしまうこともあります。

自然になるように成せれば、多くを實現できますが、無理をしてしまうと、さらなる苦勞や損失を生むことにもなりかねません。

「理想の人生とは何か」ということよりも、「理想の人生を送れるか」。

これがすべてです。

もしも自分が誰よりも最悪の状況にはまってしまったと思ったときには、いいや、他の人たちの方がより苦勞しているのだ、と思うようにしましょう。

そうして冷静になり、いろいろなものを吸収して、自分の人生が実は良い状況にあることに感謝するようにしましょう。

そうなれば、あとは自信をもって、自分の望むべき状況を現実の物とするために行動するのみです。

思考とは、人生におけるすべての前進や後退、成功と失敗、望むことと望まないことなどの根底にあるものです。

著者：K.Imahayashi

<http://keima-infobiz.com>

<http://blog.keima-infobiz.com>

わたしたちが行うすべての思考は、自然にわき起こる思考と同じく、それ自体はとても純粋なものです。

思考とは、意識できるできないに関わらず、それ自体が力なのです。

それはどの人生においても不変の真理であり、自然に生み出され、自然に行われる力です。

得られるものをはっきりと見極め、理想をしっかりと持続的に維持しましょう。

疑いや恐れなどのために、前向きな気持ちや自信を見失わないでください。

不満をいわず、あるべき態度で毎日をすごしましょう。

そうすることで遅かれ早かれ、理想は現実のものとなるのです。

精神や思考の力は、時が経つにつれて弱くなっていくこともあります。

そして、望み通りの結果がなかなか見えてこなければ、あせりを感じることもあるかもしれません。

ですがそういうときこそ、それは単に時の流れが迷いを生じさせているだけであるということを忘れないでください。

そういうときこそ、前に自分の悪い癖を克服したときのことを思い出し、何事も一度には達成できないことを確認すればよいのです。

意思の力は、何度も使っているうちに、より効果的に使えるようになります。

最初はゆっくりですが、続けているうちに次第に速く使えるようになっていきます。

何事もそうですが、実際に使うこと自体が、上達には不可欠であり、成長を促すのです。

たとえば、音楽家にも同じことがいえます。

どんなに音楽を勉強してきた人でも、ピアノに座っていきなり、初めて弾く曲を演奏することはできないでしょう。

著者：K.Imahayashi

<http://keima-infobiz.com>

<http://blog.keima-infobiz.com>

その曲を何度も何度も、実際に演奏することで練習していくわけです。

くり返し演奏するうちに、より正確に、確信をもって弾くことができるようになります。

意思が反射神経を伝わって指を動かす、という流れが、より速く、確実になっていくわけです。

そして最終的に、誰しもを感動させることができる音楽を奏でることができるようになるのです。

これが意思の力の使い方です。

くり返し使う、ということがカギです。

くり返して使うことで、より集中力が高まり、望むべき結果につながっていくのです。

若い人々だけではなく、歳を重ねた人々にも、自分の性格を作っていくことは可能です。

歳を重ねた人々では、何か違いがあるでしょうか。

素敵に歳を重ねた人もいれば、そうでない人もいます。

やさしく魅力的な年配の方もいれば、まったく逆の方もいます。

ある人は友人をととても大切にし、周囲の人にも優しいのですが、またある人は疑り深く、人々から軽視されていると感じています。

人生を楽しいものにとらえている人もいれば、そうは考えられない人もいます。

どうしてこのような違いが生まれるのでしょうか。

偶然でしょうか。

単に機会に恵まれたか恵まれなかったか、の違いでしょうか。

そうではありません。

わたしは人生においては、そういった偶然はないものと思っています。

著者：K.Imahayashi

<http://keima-infobiz.com>

<http://blog.keima-infobiz.com>

いえ、この世の中すべてにおいて、かもしれません。

原因と結果、この関係性は絶対的なものです。

ある結果は、それに相応する原因によるものです。

それでは、なぜ、年配の方にあのような大きな性格の差がうまれるのでしょうか。

なぜ、ある人は不安や恐れなどとは無関係で、別の人はそういった不安や恐れがつきものという生活を送るのでしょうか。

人生のある時期において、こういった人の違い、性格の違い、習慣の違いなどが明らかになってきます。

顕著な思考や精神状態が表に出るようになってくるのです。

ここに一本のリンゴの木があります。

自然な状態のまま、接ぎ木などはされていません。

春が終わり、花が咲きました。

見た目には、それぞれの花の違いは分かりません。

時が経ち、花はやがて若いリンゴになります。

始めのうちは大きな差はありませんでしたが、数週間も経つと、形や色や味などに違いが出てきます。

誰もが見分けることの出来る違いです。

小さくて固く、青っぽいリンゴは、秋が終わると枯れてしまいます。

一方、大きくて赤く、おいしく育ったリンゴは、また次の年にはきれいな花を咲かせます。

この例えは何を意味しているのでしょうか。。

著者：K.Imahayashi

<http://keima-infobiz.com>

<http://blog.keima-infobiz.com>

成長段階の最初の方では、それぞれのリンゴの質には小さな違いしかありません。

ですが、時間が経つと、その小さな質の違いも同時に育っていき、やがては誰もが判断できるほどに大きな違いへと成長するというわけです。

この結果をふまえれば、今後は前もって、最初の段階で、育ちの違いを判断できるようになるでしょう。

人の人生にも同じことが言えます。

美しく魅力的な大人になるためには、若い時期からそのように心がけなければならないというわけです。

もしも若い時期にそのように過ごせなかった場合でも、環境にうまく適応して、バランスをとるように対応を調節していくこともできます。

最高の喜びを得るのは若干あとになってしまうかもしれませんが、それでも人生において、取り返しのつかないことなどありません。

ただ、特に美しく魅力的な歳の取り方をしている人というのは、相応の心がけを若い時期から始めていた人なのです。

思考の習慣というものが、時間とともに、効果を見せるのです。

恐れ、不安、わがまま、頑固な性質、あら探しする傾向、他人の意見や考えに翻弄されやすいこと、他人への思いやりがないこと、自分の性格をコントロールする力がないこと、愛情や人の力を信じられないこと。

これらがすべて、歳をとってきたときに、暗い性格や喜びを感じない性格、他を受け入れられない人間性となって現れてくるのです。

一方で、反対の人生を送ってきた人は、誰に対してもやさしく、魅力的な歳の取り方をするのです。

さらに言えば、これら両方の考え方や生きる姿勢の違いが、表情や体型、体や精神の健康状態などに、差を生むことになってしまうわけです。

人がそれぞれに、人生を生きる上でのちょっとした哲学を持つことは悪いことではありません。

著者：K.Imahayashi

<http://keima-infobiz.com>

<http://blog.keima-infobiz.com>

その後の人生を生きる上でとても役立つものとなるでしょう。

そういった哲学がなければ、うまくいかなくなる時もあるかもしれません。

純粹にお金やビジネスという意味で考えた場合、人生の哲学はたいして役に立たないかもしれません。

しかし、もっと本質的な、たとえばお金やビジネスの面で成功した人々が欲しているような部分、お金では買うことのできない部分で、人生を豊かにしてくれるでしょう。

自分の中心、を、できれば早い時期に、見つけておくことも大切です。

生きていく中では、自分の役割を果たすことや、あらゆる状況で興味を保ち続けること、いつでも環境の変化に対応できることなどが、不可欠になってきます。

常に流れている水が、甘さや透明さを保つことができるのと同じようなものです。

流れが止まってしまうと、水はそのうち汚れてしまいます。

わたしたちが魅力的な人間であるかどうかを決める要因は、わたしたち自身の中にあるのです。

これはすべての世代の人々にいえることで、若い人も年配の人も気付くべきことです。

しかし、歳をとると、こうした適応は若い人のものであって、自分には難しいと考えてしまう人も多いようです。

多くの場合、歳をとった人は、そのように考えてしまうために魅力を無くしてしまっていると言えます。

わたしたちは皆、人生という偉大な舞台の上にあります。

喜劇もあれば悲劇もあるかもしれません。

喜びや悲しみ、光と影、夏と冬、いずれはすべての役割を演じることになるでしょう。

舞台が進む中のそのときそのときで、わたしたちはあらゆる役割に対し、真剣に、果敢に、取り組んでいかなければなりません。

著者：K.Imahayashi

<http://keima-infobiz.com>

<http://blog.keima-infobiz.com>

良い開演と終演は、いかに良い役割を演じられたかにかかってくる。

開演時には、わたしたちは役割を選ぶことはないでしょう。

しかし、舞台の中盤、そして終演のありかたは、わたしたち誰もが決められるもので、それはわたしたちに与えられたチャンスでもあります。

人とは、経験を通じて、悟りを自覚するものではないでしょうか。

人生におけるあらゆる経験や出来事をたくみに扱うことで、わたしたちは成長していきます。

どんな問題に対しても、強く勇敢にのぞみましょう。

助けられるものは助け、でも助けられないものにとらわれないようにしましょう。

偉大な神が見守っている以上、何も気にしたり恐れたりすることはないのです。

わたしたちに関わるすべての物事に全力でとりくむこと、同じ状況の人々に最大限の協力をする、間違った方向に進んでいる人が正しい方向に戻れるように助けること、やさしく謙虚に、そして強く、自然体で生きていくこと、神の力と共に在るように心を開いて保つこと、常に心を開いて前向きに生きること、すべてを愛し、恐れに立ち向かうこと、あらゆる物事に対して良い部分を見いだすこと。

このように生きていくことで、人生という、偉大ながらも未知の舞台を、何事もおそれずに、すばらしいものにすることができるのです。

それはたとえば、古いコートを手放して新しいコートをはおるように、新しくより洗練された体に魂を入れ替えるように、違う世界の経験や成長や新しい自覚のチャンスとなるのです。

光から闇ではなく、光から光へと、恐れること無く次々と、新しい経験を重ねて行く人生を送ることができるのです。

すべての人生は、内側からあふれてくるものです。

特に西洋では、人生に時間を費やすのではなく、時間に人生を費やすべきなのです。

著者 : K.Imahayashi

<http://keima-infobiz.com>

<http://blog.keima-infobiz.com>

毎日の生活の中で、ちょっとした静かな時間を費やすということは、わたしたちにとっては問題なく可能なことです。

これは、わたしたちの精神、もしくは人生そのものから、悪い物を取り除くために必要なことです。

より良くより高い理想を達成するために必要なことです。

思考の力によって物事をはっきりととらえるために必要なことです。

長い間自らを新しく保ち、意識を集中させるために必要なことです。

日常の中で急いだり焦ったりして集中を欠いたりせずに、人生を自分のものとして生きる力を保って生きていくために必要なことなのです。

このちょっとした落ち着いた時間を無くしては、生きる力も、もしくは人生そのものも、無くなってしまうのと同じです。

このことに気付いて、人生を常に意識的に生きるということは、神の王国を、内面の素晴らしい世界を、見つけるということでもあります。

この王国は内側にだけ存在し、わたしたちが意識的に、神の生活とともに生きているのだという自覚をもつことによってのみ、たどり着ける場所なのです。

こうして、わたしたちはいつも神とともに歩んでいることになるのです。

つまりこのようにして、神がわたしたちの人生にとって現実に存在するものとなります。

そしてその現実が、わたしたちに知性や見識や力の実感を与え続けてくれるのです。

この神の意識というものは、あらゆる宗教において不可欠なものです。

つまり、毎日の生活の中でのすべての行動やすべての瞬間が、それぞれの宗教を定義しているものというわけです。

それなくして、単に名称だけでは、実際には宗教の違いは決められないということです。

人の魂における神の意識は、時代の中で、国や宗教を問わず、同様に語り継がれてき

著者：K.Imahayashi

<http://keima-infobiz.com>

<http://blog.keima-infobiz.com>

たものです。

天の王国に入るためには、幼子の態度が必要とされています。

「幼子にならなければ、天の王国にはいることはできない」

そんなことはできるわけがない、と思うでしょう。

しかし実は、それは単に、わたしたちの内側にある神の生活や神の力を自覚し、心を開いていれば何事もできるし何にでもなれる、といったことを表しているのです。

そうすることによって、最高の喜びや収穫のある人生を送ることができる、というわけです。

東洋では、人々は西洋の人々よりも多くの時間を静かに過ごしています。

彼らは、内面でイメージした人生を、外面の人生として現実のものとしようとはしません。

わたしたちは外面の生活に多くの時間を費やしますが、実は内面の、精神的な生活に十分な時間をかけることこそが、外面の生活においても重要なことなのです。

内面をあまり重視していないわたしたちは、大変なことが起きない限り、人生についてさえ深く考えることもないでしょう。

東洋と西洋の習慣を良い形で取り入れることによって、またさらに素晴らしい人生を送ることができるでしょう。

東洋では、多くの人々が毎日をただ静かに座って、瞑想して過ごしています。

彼らはおなかに精神を集中しているため、実際に外面的には空腹でもそれを感じることはありません。

西洋では、忙しい活動が習慣化された中で、よりどころもなく毎日を送っています。

なぜなら、彼らには、人生とは何なのか、自分の生活の中心はなんなのか、そういったことに時間を費やして考えることがないからなのです。

著者：K.Imahayashi

<http://keima-infobiz.com>

<http://blog.keima-infobiz.com>

もし先述の東洋の人間が、瞑想をし、そしてその後に仕事するのだとすれば、彼は良い状態で取り組むことが出来るでしょう。

西洋に生きるわたしたちがもし、忙しい日々の生活の中から、瞑想や人生にたいする思考のための、より多くの時間を作れるとしたら、より自然で普通の生活を送ることができるでしょう。

自分の中心を見つけること。

これがまず、満足のいく生活のために重要なことです。

その自分の中心をよりどころとして、日々の生活を送っていくのです。

わたしたちが考えてきた、理想の自分を作ることにおいて、遺伝的に、生まれながらにして不利だと感じている人も多いでしょう。

確かにある意味ではそうなのかもしれませんが、違う見方をすれば、それは全くの間違いです。

これはニューイングランドの先人たちが教え込まれてきた考え方と同じです。

「アダムが落ちれば、我々はみな罪である」

今、この正当性が真実かどうかがとても分かりにくくなっています。

そして、なぜ真実なのかが分かりにくくなっています。

じつは、そこには真実などないのです。

わたしたちは現実に、大切な自分自身と向き合っているのであり、アダムは、神は、永遠の存在なのです。

わたしも、あなたも、すべての人の魂も同じことです。

これに気付けば、遺伝や生まれながらのものなどは、とるにたらない、簡単に壊せる物に過ぎません。

すべての人の人生は、それぞれが握っているものですから、それぞれの人から、思い通りに変えていくことができるのです。

著者：K.Imahayashi

<http://keima-infobiz.com>

<http://blog.keima-infobiz.com>

人が夢見ることはすべてその人自身のものです。

真に努力し、理想に立ち向かい、強い性格を磨くことで、その夢を実現できるのです。

果ては、弱い人たちを勇気づけたり、やる気を失っている人たちを励ましたりして、周りの人々の模範となるような人間となることができるのです。

思考の力や可能性を理解して生きていくことで、弱く迷っている人々を、大きな力や知性や愛によって、精神的なところから勇気づけることができるのです。

精神的な、そういった手助けは、慎重に考えて完全に理解し、正しく使われることによって大きな可能性をもたらします。

静かな精神生活に時間を費やし、神の生活や神の力と人間の意識との関係について十分に考え続けている人は、最良の人生を生きることができるでしょう。

人生のいかなる問題にも対処する力を得ることができるでしょう。

自分の性格は、数年のためではなく数世紀のため、一時のためではなく永遠のため、築き上げるものなのです。

そうして、内面にある神の生活の存在を実感しつつけながら、生きていくことができるのです。

崇高でもっとも正しく、気高くて最良の意思は、何世紀もの時代を超えて残っていくものです。

やがて死がやってきたとき、人生や性格や神の自覚が、今だけではなく後世にも影響し、また新しく違う形での人生をも生き抜いていく活力は、永遠に続いていくものです。

そこには永遠の知性と愛があるのです。

「彼の島がどこにあり、生い茂るヤシがどこにあるのか、私は知らない。

私はただ、彼の愛と加護があるから生きていける、ということは知っている。」

参考資料

HYPERLINK "<http://www.selfimprovementnewsletters.com/>" [Self Improvement Newsletters](#) - improve areas of your life of your choice and achieve maximum satisfaction, health, wealth, and success! Over 16 hottest newsletters to subscribe to Free of Charge!

HYPERLINK "<http://www.purposedrivenlife.com/>" [Purpose Driven Life](#) - a groundbreaking manifesto on the meaning of life and understand how discovering your purpose can reduce your stress, focus your energy, simplify your decisions, give meaning to your life, and most importantly, prepare you for eternity.

HYPERLINK "<http://www.asamanthinketh.net/>" [As a Man Thinketh](#) - time-tested principles on how to harness the power of your thoughts. All time classics by James Allen, this is a widely regarded material of modern day personal development!